



ああああ

で

C.C. なの本

R-18







……やはり俺<sup>ゼロ</sup>専用の  
シャワールームを用意  
させたのは正解だったな  
ここなら仮面も衣装も  
付ける必要はないし  
考えをまとめるには  
ぴったりの……

ガキヤ



「なっ C.C.!?」  
「……なんだルルーシュ  
入っていたのか」  
「かごに服が入っていたのが  
見えなかったのか?」  
「私はかごは使わない派だ」  
「脱ぎ散らかすだけだろっ  
とにかく俺が先に入っていたんだ  
さっさと出ていったらどうだ」

「おい なぜお前のために私が出て  
もう一度服を着なければいけない?  
私だって外から帰ってきたばかりで  
早く汗を流したいんだ  
それに私はこのあとテレビで  
劇場版とびだせチーズ君を  
見なければいけないんだぞ」  
「そんなこと知るかつ  
とにかくお前が一度でろ!」  
「……ふうん どうしても出ないと  
言うんだな? ルルーシュ」



「いいだろう なら一緒に入ろうじゃないかルルーシュ」  
「なにっ？ お、おい入ってくるなっ」  
「別に今さら恥ずかしがる間柄でもないだろう？」  
それともシャルルのギアスが解けた今でもこの体を抱いたことは忘れたままなのか？」

「……そんな大事なことを忘れるわけがないだろう」  
「だったら何も問題無いじゃないか」  
「いや問題の本質はそこじゃないだろう」  
「細かいことを気にする男だなそれより折角だから体を流してやろうとかそういう考え方はできないのか？」  
「うっ」

ぐいっ むにゅむにゅん  
「どうだ？ 久しぶりの私の体はほらちゃんと揉まないと洗えないぞ？」  
「おいっC.C. だれも洗うとは……」  
この女、誘っているのか？  
それともからかうつもりか？  
にゅるるにゅるるん  
うっ……柔らかな胸が泡でヌルヌルと掌の中で自在に変形してこれは……  
「……ふん いいだろう隅々まで綺麗にしてやる」  
にゅるるんにゅち にゅるるるる  
「ん……」  
この瑞々しい肌触り…… 意外と華奢な腰回り……  
ぬるるっぬるるんっ  
「ん…… ふう……」  
ピンクの可愛い乳首が少し大きくなってきたな  
くりくり きゅう  
「あ…… このっ」









むにゅん

「ふん元童貞坊やが好きにしてくれただな  
当然お前も洗われる覚悟はできているんだよな？」  
ぷにゅんぷにゅん  
「元童貞坊やって言い方はやめる  
それにどんな洗い方をしようとしてる」

「どうせ？  
私のスポンジは」

ぬちゅん

むぢゅん

「日本では風呂でこういうふう  
に洗う文化があるらしいぞ？」

にゅにゅんにゅにゅん

「それは一般的な文化では……うあ」

胸が押し当てられて……うっ柔らかい  
それに乳首がコリコリと

「ほらこのスポンジは柔らかいだろうか？」

ぬちゅぬちゅぬちゅ

泡立ちながら胸が自在に

変形してなんとという密着感だ……

「おいルルーシュ どうして洗って  
やってるだけなのに股間のを  
硬くしているんだ？」

むぎゅぬちゅぬちゅ

「うっ これを洗っているというのは  
無理があるだろ……」

ハハハ

「さて汚れやすいここは念入りに  
洗ってやらないとなあルルーシュ  
まずは皮をむきむきしてやろう」  
「……」  
ぬち……つるん

「それじゃあ次は」

お前の大好きなこっちのスポンジで  
ゴシゴシ磨いてやろう」

むぎゅ

うおっ まさか尻を使って洗う気が

「ふふふ 一気にガチガチになったぞ  
洗うだけなのに何を期待してるんだ？」

むぎゅぬちゅぬちゅぬちゅぬちゅ  
くっ 泡と愛液まみれの柔らかくて  
重みのある尻が包み込んできて

「エラも細かい凹凸もしっかり綺麗に  
してやらないとな」

じゅっちゅっちゅ

おお まるで肉棒の細かいすべての  
凹凸にフィットするような密着感だ

「ッ……  
ガチガチだぞ」

ぬちゅ

ぬちゅ

ぬちゅ

ぬちゅ

ちゅっちゅちゅちゅるん♡

「どうだ？ルルーシュ

私のスポンジは」

「くっ 改めて認めざるをえないな  
お前の尻の素晴らしさを」

「ふふふ 素直にほめられるのは  
悪い気はしないな

ほらもっと私のお尻の感触を  
味あわせてやろう」



じゅぶっじゅぶっじゅぶっ

「はあっ くおっ」

柔らかく張りのある

尻に左右を挟まれ

秘裂が裏筋を 菊座が亀頭を

それぞれ刺激してきて

なんとこの快楽だっ

にゅじゅっにゅじゅん♡

「ふっふっ ルルーシユ

お前のちんぽがお尻の間で

よだれを垂らして

跳ねまわってるぞ？」

ぶるん

じゅぽ じゅぽ じゅぽ

じゅぽ じゅぽ

ぶるん

「お前のこっけり精液は落とさずらいからな」

「はあはあ」

「はあはあ」

「お前のこっけり精液は落とさずらいからな」

「はあはあ」

「はあはあ」

「お前のこっけり精液は落とさずらいからな」

「はあはあ」

「ん…ふう…ちゅぶ♡」

ああ…C.C.の口の中ぬめって

ちゅぶぶ ちゅぱちゅぱ じゅるるるる♡

…っ 敏感になった亀頭を吸われたら…っ

「くっ もう出そうだっ」

「ひひほっ」

喉の奥まで飲み込んで…っ 出るっ

びゅくんびゅくん びゅるる びゅる

「…っ ん…っ」

じゅるるるるるる ごくごく

ああ…C.C.

何の躊躇もなく精液を飲んで…

びゅる びゅっ

「ん…っ♡ はあ

たくさん出したなルーシユ…ちゅ♡

ふふ まるでチーズみたいだな」

ちゅるるる

「うっ残り汁まで…」

んん♡

ちゅるる

ドン

びゅるる♡

ちゅ

ちゅる

ちゅる

「んん♡」

「んん♡」



「なんだルルーシユあれだけ出したのに全然萎えないじゃないか  
もっと絞りとって欲しいのか？  
そんなに溜まっていたのか？」  
「…ふん 間違っているぞC.C.  
確かに溜まってはいた  
だがこの猛りの理由は  
お前を抱きたいという想いからだ」

「…ふふ お前も少しは女心を学んだ  
みたいじゃないか…いいだろう  
もう少しつきやってみよう」  
「魔女め びしょびしょに濡らして  
おいてよく言う」  
ちゅ♡  
「ん…♡」  
思えばこの女と何度こうやって  
口づけをしただろう  
ちゅ ちゅる れる んちゅ♡  
「…ちゅぶ キスの仕方は  
忘れていなかったみたいだな？」



「ん…はあ どうだ久しぶりの私の膣内の感触は」  
「ああこの暖かく潤ってまんべんなく絡みつく感触…  
相変わらず素晴らしいぞC.C.」  
ゆっさゆっさ ぬっちゅぬっちゅ  
「ちゅ ちゅ♡ …っはあん  
そうだルルーシユ 最初ゆっくりと労るように動いて  
じっくりと私を味わえ…んっ」  
ずず ちゅぶちゅぶ  
この女意外と恋人のような優しい動きが好みのようにだ  
こうやって優しく子宮に口付けるようにピストンすると  
明らかに膣内の動きが変わるからな  
ぬちゅぬちゅぬちゅぬちゅ  
「あ…っ うんっ はあ…ちゅぶ♡ …いいぞルルーシユ」  
上も下も濃厚なキスをするように  
ぬちゅぬちゅ ちゅぶちゅぶ  
「んっ♡ あっ♡ あっ♡ あっ♡ あっ♡ あっ♡」





ぐにゅうう ぐにゅうう  
うっ… C.C.の膣のうねりが  
どんどん激しくなって細かく柔らかい  
ひだが肉棒全体を舐め回してきて…  
このままじゃ先に…  
にゅうぐう ちゅくっ  
「はあっ はあっ はあっ  
…ふふどうしたルルーシユもう限界か？  
相変わらず早漏だな？」

にゅちにゅちにゅち ぱんっぱんっぱんっ  
「くおっ 待てC.C.っそんな激しく動くなっ」  
「ほらほら遠慮するな 出してしまえ♡」  
ええいこの魔女め 自分が優位だと  
認識した途端スパートをくるとは  
「くっ… ふん ならこっちも容赦はしないっ」



ふん  
お前の弱点は  
知ってる

「あっこら そんなに尻を揉むな」  
「戦いに相手の弱点をつくのは当然のことだっ」  
むにゅんむにゅん ぱんぱんぱんっ  
尻たぶを揉みながらピストン運動だっ  
「あっ♡ あん♡ くっ♡ この…っ  
人の尻を揉んで何が戦いだっ…♡」  
ぱんぱんぱんぱんぱんぱん  
「うおっ」  
手から逃げるようにC.C.の  
腰の動きが不規則になって  
それに愛液もどんどん溢れでて  
本当に肉棒を洗われているようだっ  
ぬじゅんぬじゅんっ ぬっちぬっち  
「くう…っ」  
「はあっはあっ…ふふ♡ どうだ？  
久しぶりの私の腰使いは？  
青二才が私に勝てると思うなっ」  
C.C.めっ あくまでこっちを先に  
イカせる気かっ なら…」



ぬちっ にゆるにゆる

「んんっ あっこのっ おいっ

「アナルマツサージは卑怯だぞっ」

「遠慮するな 隅々まで洗って

やると言っただろう？」

にゆちにゆち ばんばんばんっ

中指の腹で皺のほぐすようにに

「んっ♡ ああっ♡ そんな…にっ

「アナルを優しく撫でるな…っ」

「魔女め余裕がなくなってきたな

なら一気に攻め落とすっ

ぼか、  
そこは

ぬい

ぬちゅ

じゅぽ

じゅぽ

んんっ

「あんっ♡…っ アナルに指は

よせっ あっ そんな指でほじられ

ながら一緒にされたらっ」

「は…っは…っ 中もちゃんと

洗わないとだろ？」

この女はここが弱いからな

肉棒を指と一緒にピストンすれば

ちやくちやくちやくちやく

ばんばんばんばんっ

「んっ♡ んっ♡ あっ♡ ああっ♡」

ぎゅちぎゅちっ

ああっ 膣も指もきゆうきゆうに

締め付けて…っ こっちももう限界だっ

「はあっはあっ もう私はっ

ルルーシュっ 一緒に…っ」

「…っ ああC.C.っ 一緒にっ」

じゅぷっじゅぷっ ぶちゅんぶちゅん

「ルルーシュ…そのままいいぞっ んっ♡」

「C.C.——ッ」

ピクシ

どろっ

あ、  
ルルーシュっ

ぬちゅ

びゅるるるる

ドクン…ドクン…

「…はあ はあ はあ

まったく相変わらず優しさと

いたわりの心の足りないやつだ」

「…はっ…はっ …魔女め

先にしかけてきたのはどっちだ？」

ぬりゅん どろおお

「男が細かいことを気にするな

それよりどれだけ出す気だ？」

腹の中がたぶたぶだ

私じゃなかったら妊娠しているぞ？」

「むしろお前の子宮が搾り取っているん

じゃないか」



はぁ

はっ

ゴロ

「さて……さっさと流して出るぞ」  
「……ちよつと待てルルーシュ  
隅々まで洗ってくれるならここもちゃんと指の届かない  
奥の方まで洗わないとだめじゃないか」

ぬちいぬちゆぬちゆ  
アナルオナニーだと  
…相変わらず羞恥心の薄い女だ  
「前だけで満足できなかったのか？  
全く欲張りな女だ」

「先に手を出しておいてよく言う」  
「お前が好きものなだけだろ？」  
「そもそもここを開発したのはお前だ  
それとも久しぶりだというのに  
もう枯れたのか？」

「…ふん いいだろう  
その発言を後悔させてやろう」  
「お前にできるのか？ルルーシュ」

にゅち  
にゅち  
トロォ…

ぬ

ぐぐぐ

んい

にゅち

「完全に出来上がっていたな  
簡単に肉棒を全部くわえこんだぞ？」  
ぬちい…  
「ん…っ お前のほうこそ  
2回射精したとは思えない  
硬さじゃないか…」  
ぬちっぬちい  
動かなくても濡れそぼって  
柔らかくしゃぶりつく腸と  
肉棒の根本をきつくハグする肛門…  
やはりこの女の尻は素晴らしい

にゅぶにゅぶ  
「それじゃあ楽しませてもらうぞ  
C.C.」  
「ふう… いいぞルルーシュ  
私の尻穴を存分に味わえ♡」

ぞくぞく





ぬぽぽぽぽぽ  
 「はあ……♡」  
 出すときは肉棒をこれでもかというほど絡みついてくるくる肛門…

ぬちちちち  
 「ん……」  
 挿れる時は排泄するような腸の抵抗で亀頭がねっとり舐め回される

ぬちゅうう ぬるるる  
 「んっ……」  
 ぬちゅうう ぬるるる  
 「はっ……」  
 それにしても綺麗にしろといったが全然汚れていないようだな？ C.C.は偶然を装っていたが最初から準備して入ってきたということか……ふん 可愛いじゃないか たっぷり愛でてやろうぬちゅん にゅぽおぬちゅん にゅぽお……  
 「ふうっ あ……ん♡ んっっ あっ♡」

先の当たる部分をずらしながら優しく一定のリズムでピストンするのがコツだにゅちにゅちにゅちにゅち  
 「んっ♡ あっ♡ あっ♡ あっ♡」  
 流石のC.C.もこちらでの経験は殆ど無いらしく前でする時のような余裕はない少女のようにただひたすらに耐え難い快楽に打ち震える姿も新鮮で妙に加虐心をそそるものがあるにゅちにゅちにゅちにゅち  
 「あっ あっ んう……っ……っ……」



にゅぽにゅぽにゅぽにゅぽ  
 「は……」  
 ちよっと待てっ これ以上はまずい……っ  
 「ん？ 何がまずいんだC.C.？」  
 「く…… これお尻刺激以上されたらその……出てしまいたいそうなん……だっ」  
 「何がだ？ ……その大きい方か？」  
 「ちっちがう ……小の方だっ」  
 「ふん ここなら別に問題ない」  
 「なっ!？」









あゝゝ

ぶる

んん

ぶるる

ダメだ

あ あ あ

ドドド

ああ  
可愛いわ

んばあ

ハハハハかきが...

ドドド

.....  
おいルルーシュ  
「撃つていいのは  
撃たれる覚悟の  
ある奴だけ」  
だったな?

何...

おしまい

オキナ...

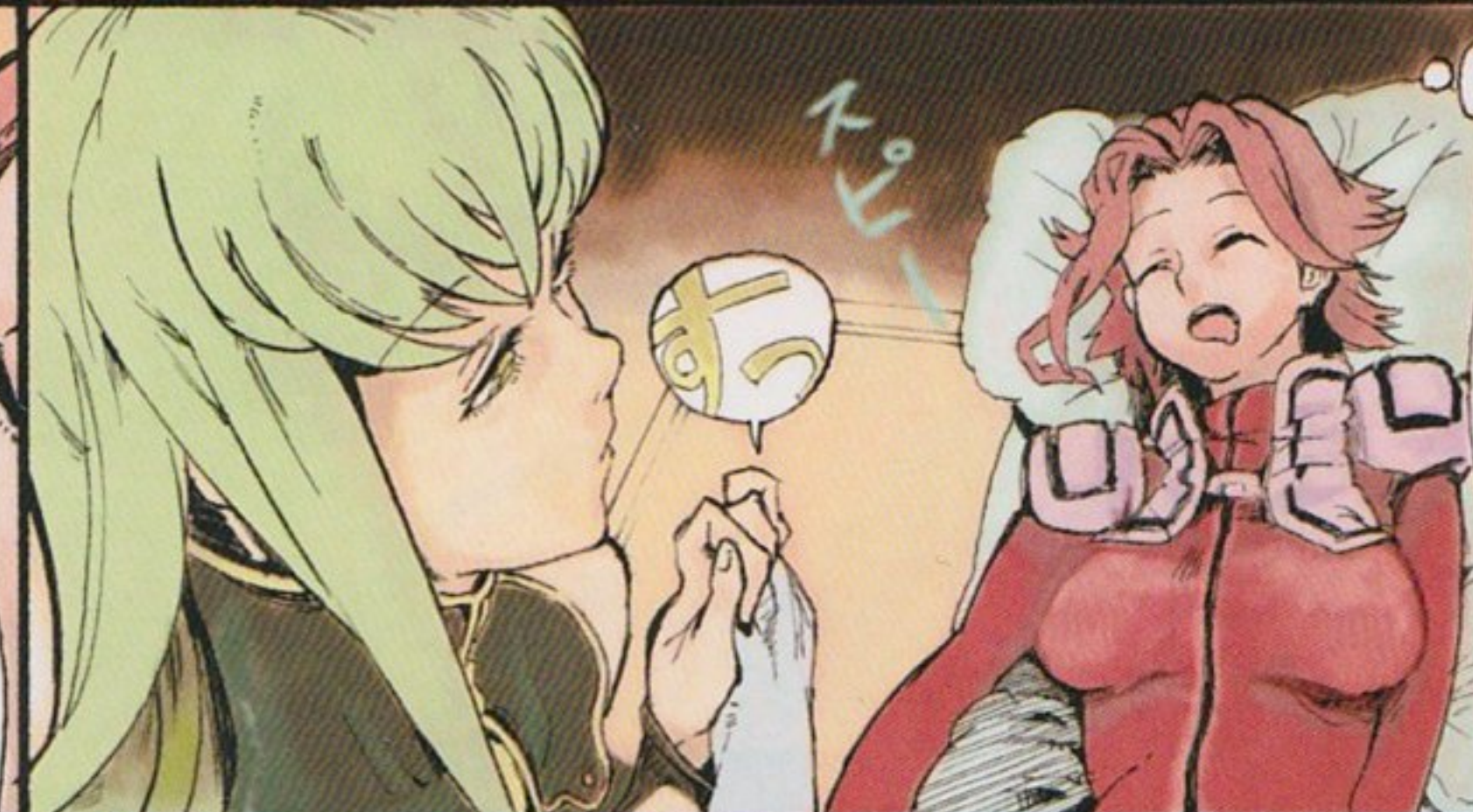
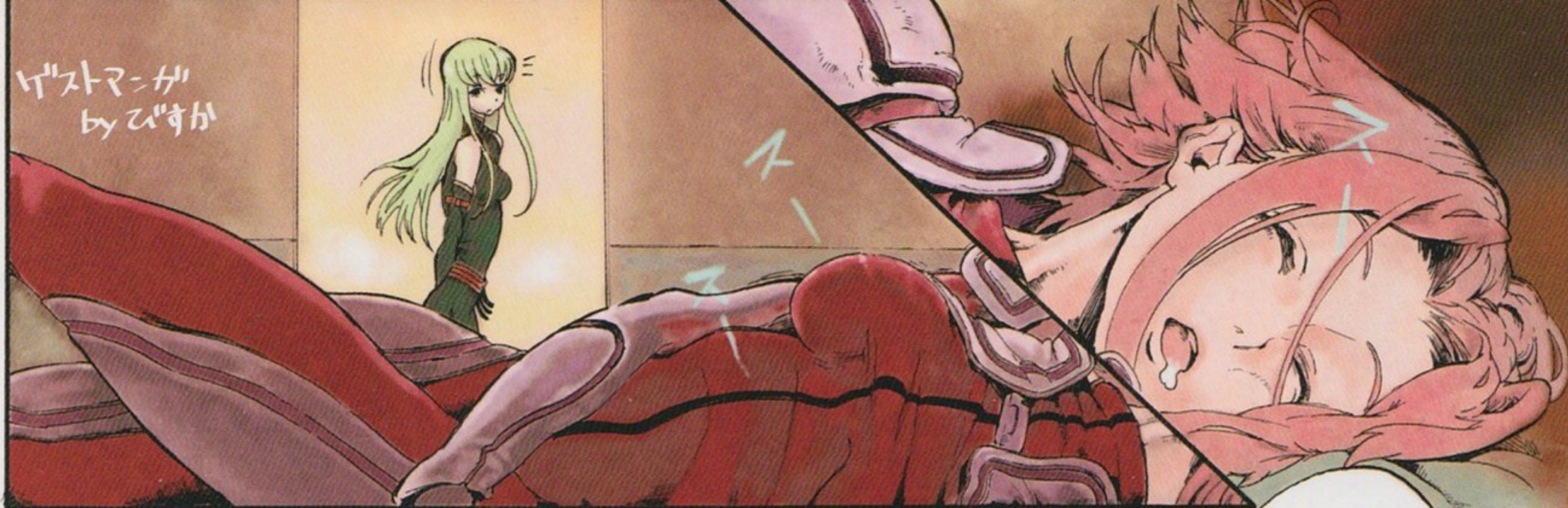


キャネコC.C.  
今回- 自分で描いた中々"服着たC.C."  
まさか公式アナル尻尾も...





ゲストマ-が  
byびすが



こんな所で…  
仕様のないやつだ

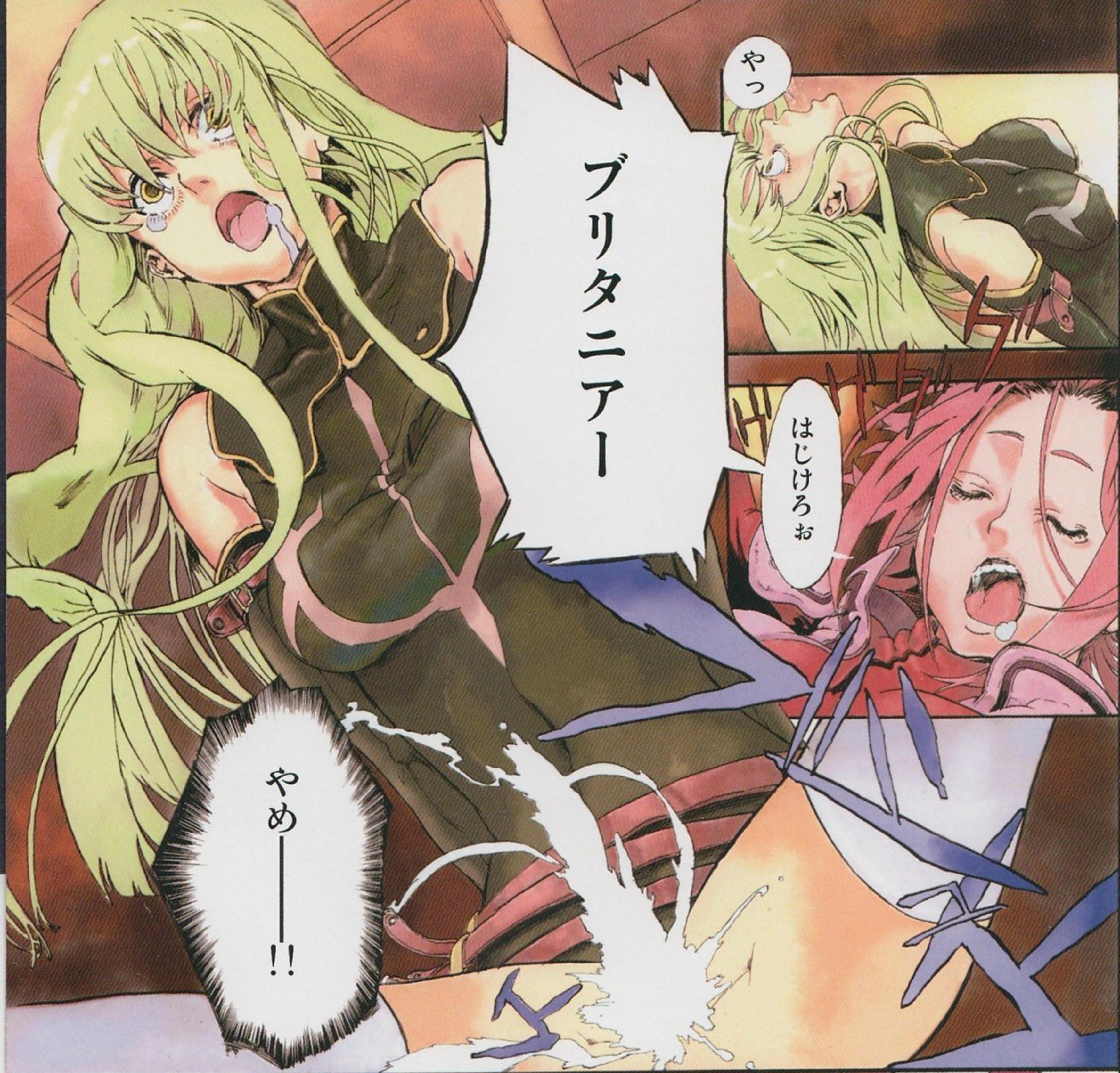
ゼロお…



ばんじやーい

ツ!  
!?





やっ

ブリタニアアー

はじけろお

やめ—!!



.....?

こ...  
これで  
良かったのか?

??

後日—...

あ...ああ

ザク

ザク

ザク



# あとがき

この度はこの本を手にとって頂き誠にありがとうございます。

最近のアギトもやってますし別に時期はずれじゃないよね？ということでアジサイメイデンvol.1のリベンジのC.C.本です。C.C.大好きお尻大好きソーププレイ大好きな感じの本を目指してみました。ちょっとシチュ的に裸ばかりになっちゃいましたね。C.C.のコスチュームデザインも好きなのでまた機会があったら描いてみたいです。

ちなみに今回どうしてもカラーの練習をしたくてでも時間的にちょっと漫画だと間に合わないかなと思いSS+イラスト形式で作ってみたんですがいかがだったでしょうか？まあ正直大して手間は変わらなかったかも…

今回文字が多めなので絵が随分隠れちゃいましたね。折角なので文字無し版をおまけ代わりにDLできるようにしておきますのでサークルのサイト (<http://ajisaidenden.x.fc2.com/index.html>) を覗いてみてください。DLパスは”Cheshirecat”です。

あと5月発売のCOMIC X-EROSに自分の描いたカラー漫画が載る予定ですので是非手にとって見てください。

Special Thanks! びすか様 (TwitterID @bisuka)





奥付

「あわあわでC. C. (しーしー)な本」

発行日:2013.4.28

印刷所:グラフィック様

発行:アジサイデンデン

著者:川上六角

表紙デザイン:小鳥遊レイ

HP: <http://ajisaidenden.x.fc2.com/info.html>

メール: [ajisaidenden@gmail.com](mailto:ajisaidenden@gmail.com)

18歳未満の閲覧、譲渡禁止

無断転載無断複製、WEBへのアップロード及び公開の禁止





アジサイデザイン